

1 地域で支える新規就農者の育成・確保

【概要】

- 新規就農者の育成確保と地域への定着に向け、地域ぐるみの支援体制づくり、農作物の基礎知識や栽培技術、経営管理手法等の習得による所得向上及び新規就農者のネットワークづくり等の支援を行った。

【背景・課題】

- 管内の新規就農者の約7割が非農家出身で、身近な者から農業の基礎的な知識・技術を学ぶことができない場合が多い。
- 市町村との情報共有を図りながら、支援方向を検討し、地域の実情に即した対策を講じて、非農家出身を含む新規就農者の経営安定化を図る必要がある。

【普及指導活動の内容】

- 管内の指導農業士会、VIC・ウーマンの会、4Hクラブ、市町村、農協等を参集し、新規就農希望者に係る研修受入体制の整備等について意見交換した。
- 「WEBマーケティング」、「土づくりと肥料」に係る新規就農者フォローアップセミナーを開催し、販売ノウハウや栽培技術の習得を支援した。
- 新規就農者のほ場4か所（ミニトマト、ねぎ、香味野菜、さつまいも）に収益力アップチャレンジ農場を設置し、栽培技術の向上を支援した。
- 「さんぱちファーマーズマルシェ」の開催により、消費者のほか新規就農者同士の交流を勧めた。

【成果】

- 昨年度確保した農業研修受入先において、新たに2名の新規就農希望者が研修を開始した。また、農業研修受入先のリストを作成し、新規就農希望者へ情報提供できる体制が整った。
- 収益力アップチャレンジ農場の受託者が栽培技術上の課題解決策を自ら検討し、実践することで、技術向上に主体的に取り組み、成果をとりまとめ発表できた。
- 「さんぱちファーマーズマルシェ」を3回開催したほか、南部町出身の実行委員が町役場と連携し、地元でも新たなマルシェを開催するなど地域内に取組が波及している。

【対象名】

新規就農者育成総合対策（経営開始資金、旧農業次世代人材投資事業）交付対象者（40名）、同交付終了者（160名）、新規就農希望者（17人）



フォローアップセミナー（1/31）



収益力アップチャレンジ農場
現地研修会（8/21）



さんぱちファーマーズマルシェ
（7/9）

2 産地直売組織を支える農山漁村女性の育成

【概要】

- 農山漁村女性の育成に向けて、女性起業者等を対象とした郷土料理の技術伝承講習会の開催や、新郷村役場や地域団体と連携した「食を生かした地域活動」への取組を支援した。さらに、産直組織を対象に、産直の販売額向上に向けた各種法制度への対応や販売力強化に向けた研修会等を開催した。

【背景・課題】

- 産直組織では、会員の高齢化により郷土料理の加工及び販売に取り組む女性起業者数が減少し、品不足が課題となっている。さらに後継者不足により加工技術が継承されず、郷土料理の存続が危うい。
- 郷土料理の技術伝承や産直組織の販売力及び機能強化への支援を通じて、産直組織を支える人材を育成する必要がある。

【普及指導活動の内容】

- 若手女性起業者等を対象に、「せんべいおこわ」や「よもぎだんご」等の郷土料理の技術伝承研修会を開催した。
- 先輩女性起業者と若手女性起業者によるマッチングを実施し、切り餅加工の技術指導と事業継承の情報を交換した。
- 新郷村若手女性4名による「子育て農業女子の会」の組織化と、同会が行う地域の「食」を活用したモデル実証活動を支援した。
- 産直組織の資質向上に向けて、新食品衛生法に沿った漬物加工に係る保健所の講義と、先進事例の視察研修を行った。

【成果】

- 研修会に参加し学んだ加工技術を磨き、イベントや産直で「せんべいおこわ」や「よもぎだんご」を販売した若手女性起業者もおり、技術の伝承につながった。
- 女性組織による「食を生かした地域活動」では、地元農産物を活用した「親子マルシェ」や「親子カフェ」を開催したほか、この活動を実施の都度SNSで情報発信すること等にも取り組んだことで、地域内の子育て世代の交流が促進され、新たなコミュニティが形成された。
- 産直組織については、新食品衛生法に対応した漬物加工の知識を習得でき、令和6年6月からの加工販売体制の整備が進んだ。

【対象名】

三八産直ネットワーク(15組織)、管内女性起業者(38件)、若手女性起業者(15件)



郷土の味を伝え継ぐ技術伝承研修会
(12/15)



「子育て農業女子の会」親子マルシェ
(10/8)



三八産直ネットワークの視察研修
(9/6)

3 「ジュノハート」のブランド化に向けた良品生産の拡大

【概要】

- 「ジュノハート」のブランド化に向けて、講習会や巡回指導等により栽培技術の普及や出荷規格の遵守に取り組んだ。着色不良や変形果等がみられたが、概ね生育状況に応じた適正管理が行われ、八戸農協及び南部市場の出荷量は前年を上回った。

【背景・課題】

- 「ジュノハート」は、ブランド化推進協議会の戦略に基づきブランド化が進められており、令和2年に県外販売が開始され、良品生産の拡大が必要である。
- 若木が多く生産量が増加していくので、栽培技術の普及が必要であり、着色不良や障害果等の対策が求められている。
- 出荷規格が一部で守られていないので、規格の周知と遵守が必要である。

【普及指導活動の内容】

- 関係機関と連携し、講習会開催（4～6月、4回）や生産情報発行（4～6月、3回）により、適期管理指導や出荷規格の周知を行った。
- 生育観測ほを5園地に設置し、調査データを講習会等で活用した。
- 良品生産と出荷規格遵守に向けて、昨年リストアップした生産者に対して、4～5月に農協及び南部市場と一緒に個別巡回指導を行った。
- 雨よけ被覆が困難となってきたことから、簡易巻取り装置を設置したハウス1か所を展示ほとして設置し、被覆時間等を調査した。
- 来年産の良品生産と適正出荷に向けて、3月に生産・出荷研修会を開催した。

【成果】

- 結実は概ね良好な中、核割れによる変形果や、高温の影響で着色が遅れた園地が多かったが、概ね生育状況に応じた適正管理が行われた。
- 系統出荷は31名（前年27名）で出荷量947kg（同408kg）、南部市場は52名（同41名）で出荷量714kg（同265kg）であった。

【対象名】

おうとう「ジュノハート」ブランド化推進協議会登録生産者 148名



栽培講習会（4月）



適期収穫研修会（6月）



結実良好

4 ながいも産地の維持に向けた若手生産者の育成

【概要】

- 三八地域ながいも担い手育成塾研修会では、催芽切いも栽培の先進事例や達人の技術を学ぶ研修により、塾生が達人技術を実践したり、研修内容に対する前向きな意見があった。また、「チェックシート」の活用により個別の生産技術の状況確認と改善を促した。

【背景・課題】

- ながいも産地を維持していくためには、担い手となる若手生産者の育成が重要である。
- 若手研究会会員を対象に行ったアンケート調査（令和2年度実施）では、栽培面の課題として品質の向上、収量の安定化が挙げられており、基本技術の徹底と種苗更新の意識付け、個々の生産技術のレベルアップが不可欠である。

【普及指導活動の内容】

- 第1回研修は、4/24にJA十和田おいらせライスセンターで、JA十和田おいらせ七戸支店における催芽切いもの処理方法を研修した。
- 第2回研修は、8/30に中里徳支氏のほ場で、達人の技術（種いも生産、排水対策、緑肥の使い方等）を研修した。
- 第3回目研修は、2/2に寺澤和夫氏と中里徳支氏の作業場で、種子選別等の技術を研修した。

【成果】

- 第1回研修では、3名が参加し、いも洗浄の程度や洗浄後速やかに消毒を行うこと、切いものコンテナへの詰め方など具体的な作業手順を理解した様子であった。
- 第2回研修では、7名が参加し、2年子生産に関する質問（使用する種いも重、切片子の作製、消毒方法）があり、自身の種いも生産と比較して、達人が行う作業の目的、技術のポイントを学び取ろうとする姿勢が見られた。また、緑肥の使い方について、達人技術の実践意思を示した会員がいたほか、昨年度緑肥の使い方を聞き、今年度から実践している会員が1名いた。
- 第3回研修では、14名が参加し、達人の種子選別技術を学び、「生産技術チェックシート」により、自己の栽培技術の診断と改善を促した。

【対象名】

八戸農協野菜総合部会
ながいも専門部
ながいも若手研究会（48名）



第1回研修（七戸）



第2回研修（中里氏ほ場）



第3回研修（寺澤氏作業場）

5 にんにく栽培における労働力不足への対応と種苗増殖技術の徹底

【概要】

- にんにくの生産性改善に向けた専用ほ場設置による種苗増殖について、研修会開催などにより重要性について生産者の理解を進めることができた。また、生産上の課題である労働力不足に対応するため、1条掘収穫機の実演会を開催したところ、中山間地に適した省力化技術に高い関心を集めた。

【背景・課題】

- 低下傾向となっている単収の改善に向け、種苗増殖技術の向上が課題となっている。
- 現状、労働力不足が深刻な「収穫」と「植付け」の省力化が課題である。

【普及指導活動の内容】

- 若手生産者を対象に、種苗増殖専用ほ場の設置及び管理技術等に関する「三八地域にんにく種苗増殖技術研修会」を開催した。
- 優良種苗の導入と種苗増殖専用ほ場設置について、栽培講習会等で継続的に指導した。
- 収穫作業の労働力不足解消に資するため、中山間地が多い三八管内の実情も考慮した「収穫機実演会」を開催した。

【成果】

- 種苗増殖技術研修会を5/19に野菜研究所で開催したところ、20名が参加し、ポイントとなるウイルス株の抜き取りや害虫防除などについて理解を深めることができた。また、研修後のアンケートで、優良種苗未導入と回答した10名中9名は、今後の導入に意欲的であり、また、現状で種苗増殖専用ほ場未設置と回答した5名は全員、今後設置したいと回答するなど、種苗増殖技術の重要性が理解された。
- 種苗増殖専用ほ場未設置者に向けた継続指導により、若手生産者を中心に理解が進んでいる。
- 1条掘収穫機による収穫実演では、補助作業者の人数が4条掘収穫機等に比べて少なく、収穫物のコンテナを運搬用の軽トラ等へ載せ替えやすいことや、傾斜地のほ場でも収穫できることなどを紹介し、参加者の関心を集めた。

【対象名】

八戸農業協同組合にんにく専門部
五戸支部西部（157名）
田子支部（126名）



種苗増殖技術研修会（5/19）



栽培講習会（6月）



収穫機実演会（6/13）